

# フィンランド独立宣言とその背景

FINLAND AFTER 1917/HELSINKI 1991

FINLAND GAINS INDEPENDENCE

SEPPO ZETTERBERG

---

名城大学 都市情報学部 150781166 日永綾乃

A) 1917年 フィンランド独立宣言

ア) 18世紀フィンランドの歴史

i) 1700年 スウェーデンとロシア間で大北方戦争勃発  
ロシア勝利によりフィンランドは侵攻され制圧

ii) 1721年ニスタット条約によりフィンランドはスウェーデンへ  
返還→バルト海岸側スウェーデン領の損失

iii) 1741年 スウェーデン対露報復戦争トゥルク条約で終結  
フィンランド東部をロシアへ割譲

→ロシアは割譲土地在住フィンランド人の宗教的自由  
法律や特許を保証

iii) 1747年スウェーデンがヘルシンキ沖合の島に要塞  
建設開始

イ) 19世紀フィンランドの歴史

i) 1808年 スウェーデンとロシアがフィンランド戦争勃発  
→不敗スウェーデンはフィンランドをロシアに割譲  
→ロシア皇帝は自ら大公としフィンランドを立憲君主制の大公国へ

ii) 1812年 ヘルシンキが首都に制定

iii) 1863年フィンランド身分制議会招集 言語勅令発布  
→スウェーデン語同様に行政の言語としてフィンランド語の地位確立

## B) ロシア統治時代

ア) 第一次世界大戦中フィンランドはロシア軍前哨基地に  
不参戦→国力温存

i) ロシアからの支配強化の為 フィンランド人反発強化

## イ) ロシアの対フィンランド 第一次抑圧時代開始

- i) 19世紀後半 ドイツの脅威に対しセントペテルブルク西方を戦略的に強固
- ii) 1899年フィンランド総監軍人ボブリコフがロシア皇帝ニコライ2世に迫り2月宣言に署名  
2月宣言→フィンランド議会が行う立法はロシア基本法の制限下でありフィンランド議会には発言権のみ付与しロシアは無関与

iii) 1900年大公国行政府内でロシア語使用強要

ウ) フィンランド引き締め策の展開

i) フィンランド軍廃止→ロシア軍に統合

ii) 1904年日露戦争で日本に敗北後ピエタリでストライキ突入

皇帝は完全専制君主制停止→ロシア総監殺害事件

→ロシア皇帝の勢力後退

iii) 立法権は国民議会に移行 国民の自由権拡大

## C) 第2次抑圧時代とフィンランド国政

### ア) 1905年国民議会開設

i) フィンランド人女性は国政の選挙権において男性同等の政治的権利獲得

### イ) 1908年ロシア化政策の再開

→ 1908年から16年6回の議員選挙実行

i) 1910年皇帝は一般議会立法法を強固

→ 1912年フィンランド移住ロシア人はフィンランド人同等の権利を有するという同等法成立

ii) 1916年普通選挙実施

→フィンランド社会民主党(SDP)は103席獲得  
議会での発言権強化

iii) 1917年7月 議会がフィンランド内で最高権威行使宣言

ウ) 抑圧時代により旧議会法(身分制議会法)改正

i) 普通選挙法で選出議員による1院制議会開設  
→フィンランド独立への前進

ii) ロシア政府は外交軍事問題を放任フィンランド議会解散  
→新選挙を任命

## D) ロシア革命と衰退

ア) 1917年ロシア革命勃発 ニコライ2世は皇位放棄

i) 国権は臨時政府へ移行

→ロシアとフィンランドは同君連合の基盤損失

イ) ロシアは対ドイツ戦の難航と食料日用品不足で崩壊

ウ) 12月6日 フィンランド独立宣言

→完全自治宣言

i) 今年建国100周年記念

ii) 1919年 アメリカとイギリスが独立国として承認

→同年5月日本も承認